

# ? KO本大賞 Q&A

**Q** KO本大賞ってどんな賞？

**A**

「神奈川県学校図書館員研究会」（以下「研究会」）の会員が、この1年間に自分で読んで「おもしろい！生徒にもすすめたい！」と思った本を投票し、大賞作品を選びます。

学校図書館の現場で生徒に接している学校図書館員、いわば「学校図書館のプロ集団」が、その嗅覚と選書のセンスを生かして選んだ生徒のための本です。

選定・公表することで、読書活動の推進、学校図書館の活性化、出版の振興に貢献したいという思いが込められています。



**Q** 名前の意味は？

**A**

正式名称は「神奈川県学校図書館員大賞」。

★神奈川「県」はつきません

★学校図書館「員」が入ります

略称・愛称がほしいと考えていて「KO本」という名前がひらめきました。

「かながわ・おもしろ・本」

「Knock・Out・された本」

「これは・おさえておきたい・本」

の3つの意味があります。

なお、神奈川県教育委員会発行の『神奈川県学校司書等実務研修 研究活動報告書』

（以下『報告書』）には「かながわ学校図書館員による生徒のための本」として全投票作品リストとコメントが掲載されています。

**Q** 賞の特徴は？

**A**

学校司書が実際に読んで面白かった、というだけでなく、生徒にすすめたい、というところがポイントです。順位をつけずにひとり5作品まで投票できます。

会員が「この1年間に読んだ本」であれば新刊でなくてもかまいません。少し前に出版された本でも「いまだから読んでみた」「いま読んでおきたい」本の情報が集まってくることを期待して、出版年は問わない設定になっています。

学校図書館は多様な資料を扱うところなので、ジャンルも問いません。そのため例年、票が割れます。投票作品の多くは「1票本」です。その中でも多数の票を集めた大賞作は自信を持っておすすめできます。

**Q** リストはあるの？

**A**

全投票リストは、おすすめコメント、一票本も含めて宝の山です。各校の図書館での選書にも大活躍します。

リストは研究会ホームページで公開されるほか、『報告書』に掲載されます。非売品で、神奈川県立図書館や国立国会図書館、司書課程を置く大学などに寄贈しています。



Q 発表時期は？

A



12月に研究会ホームページにて発表しています。年間のスケジュールは次の通りです。

7～8月	夏期全体研究会で実施要領と投票用紙を配付
10月末	投票締め切り
12月上旬	冬期全体研究会で結果発表

Q 関連イベントは？

A

受賞者には出版社経由で報告し、高校生向けにコメントを依頼しています。

過去には講演を依頼して実現したこともありました。

★誉田哲也さんの講演（2009）

★朝井リョウさんの高校生向けトークイベント（2011）

★辻村深月さんのトークショー（2015）

2021年には図書館総合展の「押し本」イベントに参加しました。各校図書館でのコーナー展示のほか、公共図書館や書店とのコラボレーションも始まっています。

Q 誰が運営しているの？

A

2007年度、研究会有志によって第1回が始まりました。2008年度から実行委員会形式となり、2013年度からは県内8地区の持ち回りで運営されています。2021年度に第15回を迎えました。

担当地区によって、特別賞が設定されることもあります。「本を読まない子にすすめる本」（2014）、「10回記念」（2016、第1～9回までの大賞受賞作品の中からベスト作品に投票）、「ご当地本」（2018）

Q ポスターは誰がつくっているの？

A

デザインは担当地区に任されています。会員の勤務校の生徒に原画を依頼するケースが多いようです。



Q 投票率は？

A

第17回（2023）は63%でした。会員はひとり5冊まで投票できますが、「1冊でも該当作なしでも投票可」として投票率アップをはかっています。

Q 今後の課題は？

A

会員向けには投票率の向上、対外的には知名度アップ、書店や図書館、出版社とのさらなるコラボレーションなどです。

